

自尊の鐘



「人を敬い、いっくしみ、自らをたつとび高める」、校訓『敬愛自尊』のもとに、毎朝鳴らされる「自尊の鐘」。今日をどのように過ごし自分を高めていくのか、鐘の音を聴きながら「理想をめざし日に進む」(校歌)、生徒たちの成長の姿をお知らせします。

学力向上の取組—各種学力調査の結果から

大変遅くなりましたが、1学期に行われた全国学力・学習状況調査(3年)と県の学力把握調査(2年)の結果を分析し、本校としての取組をまとめましたのでお知らせしたいと思います。ご家庭でも学校の取組をご理解いただき、ご協力をお願いします。また、併せて藤崎市の分析結果についてもご覧ください。なお取組の基本方針として、以下の3点をもとに考えました。ご理解いただければ幸いです。

- ①取組を出来るだけ「焦点化」「具体化」して、日頃から教師も生徒も意識して取り組めるものにする。
- ②全職員で目的意識と情報の共有化を図りながら取り組む。
- ③新たな取り組みを考えるよりも、これまで行ってきた取り組みのバージョンアップや見直しを中心に考えていく。

1 学力把握調査(2年)の分析と課題

国語

◆全体では本校は県の正答率とほぼ同じ正答率です。2領域「話すこと・聞くこと」「読むこと」については正答率が県をやや上回っていますが、「書くこと」については県の平均正答率より下回っており、特に漢字を正確に書くことは課題となっています。

○県の結果と比べて上回っているもの(出題趣旨)

- ・目的に応じて文の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く。
- ・伝えたいことを明確に書くことができる。
- ・質問の意図を捉えることができる。

○県の結果と比べて課題となっているもの(出題趣旨)

- ・表記や語句の用法を確かめて、読みやすくわかりやすい文にすることについて理解している。
- ・文脈に即して漢字を正しく書くことができる。
- ・故事成語の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができる。

まとめると、基礎的な漢字の読み書きや、目的に応じて構成を考え、適切な文章を書くことが課題となります。

数学

◆本校は、全体では県の正答率とほぼ同じです。4領域では「図形」「関数」で県を上回っていますが、「資料の活用」領域では若干県を下回っています。

○県の結果と比べて上回っているもの(出題趣旨)

- ・分数の乗法の計算ができる。
- ・多項式の計算ができる。
- ・与えられた投影図から、空間図形を読み取ることができる。
- ・比例の表から x と y の関係を、 $y = ax$ の式で表すことができる。

○県の結果と比べて課題となっているもの(出題趣旨)

- ・事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することができる。
- ・与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈をすることができる。
- ・数量の関係を文字式で表すことができる。

まとめると、「数と式」の領域では、数量の関係を式で表すことや「図形」の領域では、数学的に解釈し説明すること、「資料の活用」の領域では、数学的な表現で説明することが、課題となります。



英語

◆全体では本校は県平均より若干低い正答率です。「読むこと」「書くこと」は県の正答率を上回っていますが、「言語材料」、「言語や文化への知識・理解」については、県の正答率を下回っています。

○県の結果と比べて上回っているもの(出題趣旨)

- ・会話文の内容を理解した上で自分の意思や考えを正しく相手に伝えることができる。
- ・やりとりの内容を聞いて把握し、適切な問答ができる。
- ・日常的な話題についての質問を聞き取り、適切な問答ができる。

○県の結果と比べて課題となっているもの（出題趣旨）

- ・疑問詞を正しく用いることができる。 ・一般動詞の命令文の構造を正しく理解している。
- ・文にふさわしい一般動詞を判断し、正確に書くことができる。
- ・正しい語順や誤報を用いて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる。

課題についてまとめると、文法的な事項を理解し、疑問詞を正しく理解することや一般動詞の命令文の構造を正しく理解することが課題としてあげられます。

改善のための具体的な方策

国語

授業で

- ・授業の始めに基礎基本の漢字の読み書き、構成、知識の学習の場を設置する。
- ・語彙を豊かにするために「辞書」を授業の中で効果的に活用する場面を各単元ごとに設置するとともに、文中で効果的に語句を使用できるように指導する。

家庭学習で

- ・各授業のまとめの場面で本時の学習で習得した国語用語・語彙の説明や例文の作成について家庭学習の指示を出す。
- ・定期的な漢字テストに向けて課題プリントを作成し、取り組ませる。

その他の場面で

- ・長期休業の後や各学期に漢字テストを実施し、基本的な語彙の定着をはかる。

数学

授業で

全体的に「数学的な表現」や「説明」に課題が見られるため、毎時間ごと小グループでの話し合いや学び合いの時間を設定する。関数および図形領域では毎時間ごとデジタル教科書を用いて教科書の表現方法を理解させる。

家庭学習で

グラフや証明をかくことを週末課題および自主学習ノートとして取り組めるようにグラフ用紙やプリントを用意する。

その他の場面で

朝学習で1年次の内容の復習を行う。

英語

授業で

今までに習った疑問文の使い方を授業の初めに対話活動を行い定着させる。また授業の初めに、疑問詞の後に置く文の形を、再度確認し英文を書く活動を行う。内容は日常会話で使用するような、相手が興味もっていること、休日にしたことを質問するなど実際に会話している場面を意識して行う。

家庭学習で

本文の内容理解や週末にワークを使って学習する。

その他の場面で

長期休業の後にスペリングコンテストを実施し、単語の定着をはかる。

2 全国学力・学習状況調査（3年）の分析と課題

国語

◇本校の生徒は正答率において全国の正答率を上回り、県の正答率とほぼ同じです。特に「読むこと・読む能力」の領域で県・国の平均正答率を大きく上回っており、「国語への関心・意欲・態度」についても、全国を上回っており、県と同じくらいの正答率です。一方で、「話すこと・聞くこと・話す・聞く能力」については、全国の正答率よりは若干上回っていますが、県の正答率よりは若干下回っており、課題となっています。具体的な数値を示すことはできませんが、もう少し内容（出題趣旨）について具体的に示すと次のようになります。

○国語：県や国の平均よりも上回っているもの（出題趣旨）

- ・文章の構成や展開，表現の仕方について，根拠を明確にして自分の考えをもつ。
- ・文章の展開に即して情報を整理し，内容を捉える。
- ・文章に表れているものの見方や考え方について，自分の考えをもつ。
- ・封筒の書き方を理解して書く。 ・話合いの話題や方向を捉える。



▲国語：課題となるもの（出題趣旨）

- ・相手に分かりやすく伝わる表現について理解する。
- ・書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する。
- ・語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する。

課題についてまとめると、「話すこと・聞くこと」の領域で「自分の知識とその場の状況を考慮し、適切に表現する、適切な表現を探る力をつけること」となります。

数学

◇数学は全体としては正答率が県・国と同じ数値です。ただし領域で見ると「図形」、「数量や図形などについての知識・理解」の領域では県や国の平均を上回っています。特に図形の証明のところで、出題趣旨「反例の意味を理解している」の設問では正答率は8割以上あり、理解が定着していることがわかります。同じく出題趣旨「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる」の設問でも、県や国の正答率を上回っています。一方「資料の活用」の領域には課題がみられ、県や国の正答率を下回っています。その他の特徴を出題趣旨で示すと、以下のようになります。

○数学：県や国の平均よりも上回っているもの（出題趣旨）

- ・反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる。 ・事柄が成り立つ理由を説明することができる。
- ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。

▲数学：課題となるもの（出題趣旨）

- ・簡単な場合について、確率を求めることができる。
- ・資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる。
- ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
- ・グラフ上の点Pの y 座標と点Qの y 座標の差を、事象に即して解釈することができる。

課題についてまとめると、「表やグラフから関数を考えることや様々な事象から確率を考える力をつけること」となります。

英語

◇英語に関しては平均正答率が県・国より若干下回っています。ただし、「聞くこと」や「話すこと」のいくつかの設問については県や国の正答率を大きく上回っています。その一方で「読むこと」や「書くこと」のいくつかの設問での正答率が課題となっています。

○英語：県や国の平均よりも上回っているもの（出題趣旨）

- ・交通手段に関する基本的な表現を理解して、応答することができる。（話すこと）
- ・月日に関する基本的な表現を理解して、応答することができる。（話すこと）
- ・日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる。（聞くこと）
- ・まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる。（聞くこと）
- ・教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる。（聞くこと）

▲課題の見られるところ（出題趣旨）

（読むこと）

- ・日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる。
- ・まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる。

（書くこと）

- ・一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる。
- ・与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる。
- ・与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる。

以上のことから課題についてまとめると、「動詞の3人称単数形や一般動詞の過去時制といった文法の基礎の定着をもとに、あるテーマについてまとまりのある英文を書くこと」が課題となっています。

質問紙調査の結果より

(%については、特徴を明確にするため、最も肯定的な「そう思う」と答えた割合をもとに考察しています。)

1 全国および山梨県の数値を上回っているもの

概ね、すべての項目にわたって全国・山梨県の数値を上回っていますが、特に顕著なものは以下の通りです。

☆生活習慣

「朝食を食べていますか」

・・・県 93.3%、全国 93.1%、**本校 96.3%**

☆学校生活

「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか」・・・県 41.6%、全国 31.8%、**本校 48.1%**

「先生は授業やテストでわからないところ、できないところをわかるまで教えてください」

・・・県 49.7%、全国 37.3%、**本校 54.6%**

「学校へ行くのが楽しいですか」

・・・県 51.1%、全国 45.7%、**本校 56.6%**

☆社会性

「人が困っているときは進んで助けにいますか」・・・県 44.0%、全国 34.5%、**本校 50.9%**

「いじめはどんな理由があってもいけないことか」・・・県 82.8%、全国 73.3%、**本校 88.9%**

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて、情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習に取り組みました」
・・・県 68.3%、全国 61.5%、**本校 75.9%**

☆道徳教育

「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったり活動にとりくみました」・・・県 84.3%、全国 76.6%、**本校 90.8%**

☆家庭学習

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり3時間以上勉強している
（学習塾、家庭教師に教わっている時間も含む）」・・・県 9.9%、全国 9.8%、**本校 12%**

2 全国および山梨県の数値を下回っているもの（課題となるもの）

一方で、全国もしくは山梨県の数値を下回っているものは以下の通りです。

☆生活習慣

「毎日同じくらいの時刻に寝ている」・・・県 35.1%、全国 35.8%、**本校 34.3%**

「毎日同じくらいの時刻に起きている」・・・県 57.6%、全国 57.0%、**本校 52.8%**

☆時事問題への関心

「新聞を毎日読んでいる」・・・県 12.7%、国 12.7%、**本校 5.6%**

☆家庭学習

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり2時間以上勉強している
（学習塾、家庭教師に教わっている時間も含む）」・・・県 34.0%、国 36.4%、**本校 30.9%**

☆読書

「読書が好きですか」・・・県 41.1%、全国 38.9%、**本校 34.3%**

☆学習面

「解答時間は十分でしたか 国語」・・・県 46.4%、全国 53.9%、**本校 43.5%**

「解答時間は十分でしたか 数学」・・・県 40.8%、全国 50.4%、**本校 35.2%**

「解答時間は十分でしたか 英語」・・・県 21.3%、全国 29.1%、**本校 17.6%**

3 分析と改善の方向性

本校の生徒は、自分自身の進路につて真剣に考えている生徒が多く、将来への夢や目標を持っている生徒も多くいます。また、規範意識が高く、きまりや思いやりの心を持ち、充実した学校生活を送っていることもわかります。家庭での生活に目を向けると、就寝時間、起床時間もまちまちで、生活のリズムが整っていないなどの家庭も見られますが、朝食を食べている割合は全国を上回っています。家庭と連携しながら生徒の家庭生活の向上も図っていきたいと思います。

学習面では学習に対する関心・意欲が高く、授業規律も確立しているため、落ち着いた雰囲気の中で授業に前向きに取り組んでいることがわかります。わからないことを休み時間やテスト取り組みの時間を活用し、質問したり、わかるまで教師と共に学びを続けたりする生徒も多いです。その一方で、家庭学習時間は3時間以上の生徒は全国を上回っていますが、2時間以上の割合は下回っており、学習時間の底上げ、特に中間層の学習時間を増やしていく必要があると考えます。本校で行っている「自主学習ノート（振り返りノート）」の取り組みを活かしつつ、さらに学習時間を含めて家庭学習へのつこ入れを図っていく必要があります。また、授業改善に向けては、校内研究とリンクさせながら、毎時間の授業の「見通し」と「振り返り」を授業の中で行い、生徒に目標を意識させ、目標の達成を実感できるようにしていく必要もあるでしょう。それとともに考えを深め表現力を高める「対話を効果的に取り入れた授業の工夫」を各教科で実践し、さらに授業と家庭学習（予習課題や宿題）を有機的に結びつけていけるような研究と実践を今まで以上に積み重ねていくことが必要と思われる。その上で、理解定着のための問題演習等にも力を入れ、解答時間の短縮も図っていきたいと思います。

改善のための具体的な方策

国語

授業で

話し方の構成や効果的な論の展開、伝えるための表現の工夫などの知識・技能面での強化を図るために、授業の始めの場面で、「スピーチ」の機会や、グループで同一テーマについて意見交流会を設定する。

家庭学習で

その日の授業で習得した知識や技術の確実な習得を図る課題を宿題として提示し、復習の機会を設ける。

その他の場面で

始業までの「0校時」を利用し、漢字の読み書きや文法等の復習を行い、学習事項の定着を図る。テスト前の「自尊の時間」を活用し、「わからないこと」への対応を行う。

数学

授業で

2乗に比例する関数の単元で、表・式・グラフを生徒に書かせ、互に関係づけながら関数の授業を展開することを行いながら、関数の理解を深めていく。また、授業の最初に行う5分間プリントの中で、確率の復習を行い、基礎・基本の定着を図る。

家庭学習で

関数や確率の復習プリント等を生徒の実態に応じて週末課題の中で提示し、TTの体制を活用し、個別指導等を行う。

その他の場面で

数学の授業はTTで行っているため、生徒の実態に応じて指導を行いやすい環境にある。1クラスを到達段階に分けて指導することと、机間指導の中で個別指導等を綿密に行うことで生徒の苦手の克服を図る。また、休み時間等を活用し、生徒の質問等に答えられる様にする。

英語

授業で

文法を理解させるために丁寧に解説すると共に小テストを繰り返して行く。テーマを設定し自分の意見を書かせることを単元の終わりごとにする。

家庭学習で

毎時間の復習をノートにさせることと小テストに向けての学習をさせる。

その他の場面で

長期休業中に文法をまとめたプリントを配り長期休業の後にテストを実施し、文法の定着をはかる。朝学習や放課後等で質問に応じたり、休み時間に学習する雰囲気を作る。

最後に

今年度から「全国学力・学習状況調査」の内容がこれまでのものと変わり、国語、数学で問題がそれぞれA(知識)・B(活用)に分かれていたものから、両方をあわせての国語・数学という形に統合されました。また、英語では「話すこと」の設問が新設され検査が行われました。本校では、結果の送られてきた7月下旬から夏休みにかけて担当で分析を行い、9月末の職員会議で、分析結果と取り組みについて全職員で共有化を図り、具体的な方策を進めていくことを確認し、今実践しているところです。

この結果は、あくまでも学力のある一面をとらえているものですが、ご家庭でも、すでに生徒一人ひとりにお渡しした個人票と照らし合わせながら見ていただき、我が子の状況と比較しながら、前向きに温かく励ましていただくようお願いいたします。

